

2024年2月期 第3四半期 (2023年3月1日~2023年11月30日)

決算説明資料



©2024「ハイキュー!!」製作委員会 ©古館春一／集英社

2024年1月15日(月)



Entertainment for YOU

— 世界中のお客様に 感動を —

2024年2月期 第3四半期 営業概況

	2023年2月期 (2022年3月～11月)	2024年2月期 (2023年3月～11月)	前年同期比	増減率
営業収入	179,738百万円	203,100百万円	23,361百万円	13.0% ↗
営業利益	35,867百万円	41,610百万円	5,743百万円	16.0% ↗
経常利益	40,913百万円	44,182百万円	3,269百万円	8.0% ↗
親会社株主に帰属する 四半期純利益	27,138百万円	28,402百万円	1,263百万円	4.7% ↗

2024年2月期 第3四半期 営業概況

【「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」について】

2022年4月に創立100周年に向けた「長期ビジョン 2032」と今後3か年の具体的な施策である「中期経営計画 2025」から構成される「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」を策定しており、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて取り組みを進めております。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

【第3四半期決算の概況】

映画営業事業において、第2四半期から続映の「君たちはどう生きるか」をはじめ、「ゴジラ-1.0」「ミステリと言う勿れ」等のヒットもあり、増収増益。

映画興行事業において、上記の当社配給作品を中心としたヒットが貢献し増収増益を確保。

映像事業において、「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」「SPY×FAMILY」等のTOHO animation作品が、動画配信、商品化権、パッケージ販売等の多面的展開により好調に推移した結果、増収増益。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

演劇事業では、日本初上演として話題となった帝国劇場「チャーリーとチョコレート工場」や、シアタークリエ「M.クンツェ&S.リーヴァイの世界～3rd Season～」、日生劇場「ラグタイム」等が堅調に推移し、増収増益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において「東宝日比谷プロムナードビル」をはじめとする新規物件が順調に稼働したが、減価償却費等が増加したこと等により、増収ながらもわずかに減益。

上記の結果、当第3四半期の営業収入、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益で、増収増益。

セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2023年2月期 (2022年3月～11月)	2024年2月期 (2023年3月～11月)	増減率	2023年2月期 (2022年3月～11月)	2024年2月期 (2023年3月～11月)	増減率
①映画事業	115,504	136,262	18.0% ↗	23,019	29,680	28.9% ↗
映画営業	29,154	33,198	13.9% ↗	10,907	11,668	7.0% ↗
映画興行	52,767	58,956	11.7% ↗	5,860	9,086	55.1% ↗
映像事業	33,581	44,107	31.3% ↗	6,252	8,925	42.8% ↗
②演劇事業	13,875	14,508	4.6% ↗	2,233	2,256	1.0% ↗
③不動産事業	49,482	51,393	3.9% ↗	13,708	13,619	-0.6% ↘
不動産賃貸	20,937	21,917	4.7% ↗	9,044	8,841	-2.2% ↘
道路事業	21,083	21,639	2.6% ↗	3,978	3,943	-0.9% ↘
不動産保守・管理	7,462	7,837	5.0% ↗	686	834	21.6% ↗
④その他事業	876	935	6.8% ↗	165	191	16.1% ↗

(単位: 百万円)

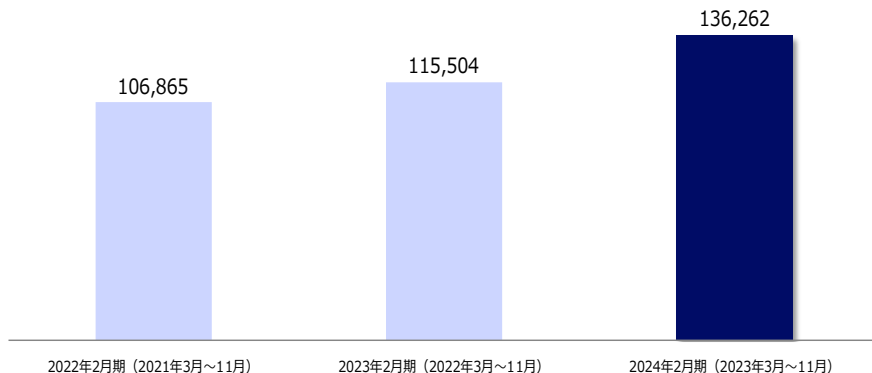
セグメント別業績（四半期別）

	営業収入			営業利益		
	第1四半期 (2023年3月～5月)	第2四半期 (2023年6月～8月)	第3四半期 (2023年9月～11月)	第1四半期 (2023年3月～5月)	第2四半期 (2023年6月～8月)	第3四半期 (2023年9月～11月)
①映画事業	50,925	43,946	41,390	13,155	9,676	6,849
映画営業	13,859	10,615	8,723	5,798	3,812	2,057
映画興行	23,207	21,309	14,439	4,668	3,445	971
映像事業	13,859	12,021	18,226	2,688	2,417	3,819
②演劇事業	5,385	4,321	4,800	1,212	52	991
③不動産事業	17,535	16,927	16,930	5,160	4,089	4,369
不動産賃貸	7,269	7,261	7,386	3,302	2,729	2,809
道路事業	7,768	6,922	6,948	1,632	1,008	1,301
不動産保守・管理	2,498	2,743	2,595	225	351	257
④その他事業	305	293	336	51	62	77
合計	74,153	65,489	63,458	18,324	12,428	10,858

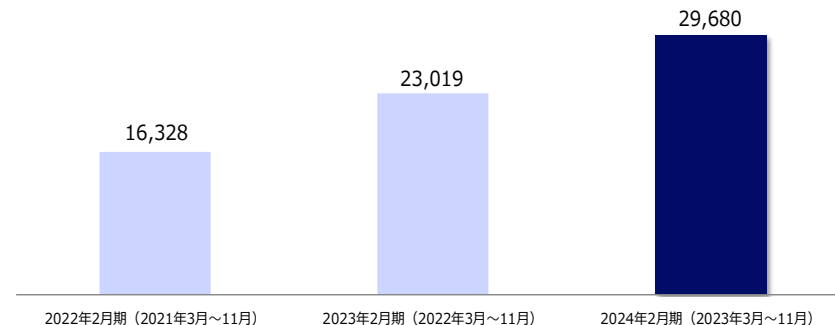
(単位:百万円)

セグメント別業績【映画事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、ゴジラ70周年記念作品「ゴジラ-1.0」(興行収入48.5億円)、「ミステリと言う勿れ」(同47.6億円)、「沈黙の艦隊」(同13.5億円)等が高い水準で推移。
前年の「すずめの戸締まり」に匹敵するヒット作はないものの、興行収入10億円以上のヒット作の本数で前年を上回り、映画営業事業全体として増収増益。
(興行収入は2023年12月末時点)
- 映画興行事業では、上記の東宝配給作品を中心とした作品が好調に推移したことに加え、昨年6月からの鑑賞料金改定の効果もあり、増収増益を確保。
11月30日に北海道札幌市中央区に「TOHOシネマズ すすきの」(10スクリーン)をオープン。
- 映像事業では、アニメ制作事業において、「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」「SPY×FAMILY」等、TOHO animation作品の動画配信や商品化権等の各種配分金収入が好調に推移。パッケージ事業では、「すずめの戸締まり」や「呪術廻戦」TVシリーズ第2期等の販売が好調。出版・商品事業では、「ゴジラ-1.0」のパンフレットやキャラクターグッズの販売が好調。
映像事業全体として、増収増益。

当第3四半期の主要稼働作品状況

東宝(株)配給作品（興行収入10億以上）

作品名	公開日	興行収入
ゴジラ-1.0	11月3日	48.5
ミステリと言う勿れ	9月15日	47.6
沈黙の艦隊	9月29日	13.5
アナログ	10月6日	11.8
首	11月23日	10.9
(ご参考)		
君たちはどう生きるか	7月14日	86.9

(興行収入は2023年12月末日時点 単位：億円)

当第3四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
3月	4,404	6,547	148.7%
4月	7,382	11,388	154.3%
5月	8,719	8,767	100.6%
第1四半期	20,506	26,703	130.2%
6月	2,616	3,182	121.6%
7月	4,161	6,867	165.0%
8月	4,150	9,148	220.4%
第2四半期	10,928	19,197	175.7%
9月	3,302	5,070	153.5%
10月	2,640	4,689	177.6%
11月	7,239	5,175	71.5%
第3四半期	13,182	14,935	113.3%

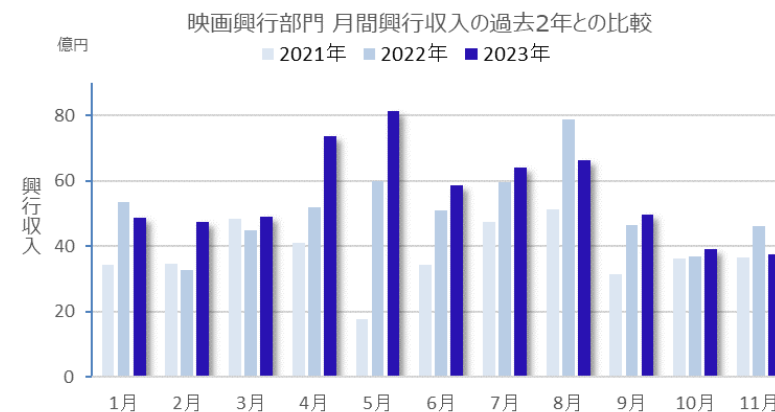
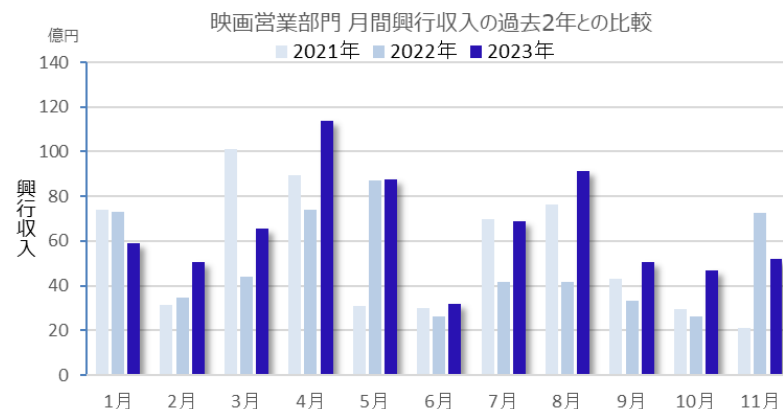
※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

映画興行事業 興行収入推移

(単位：百万円)

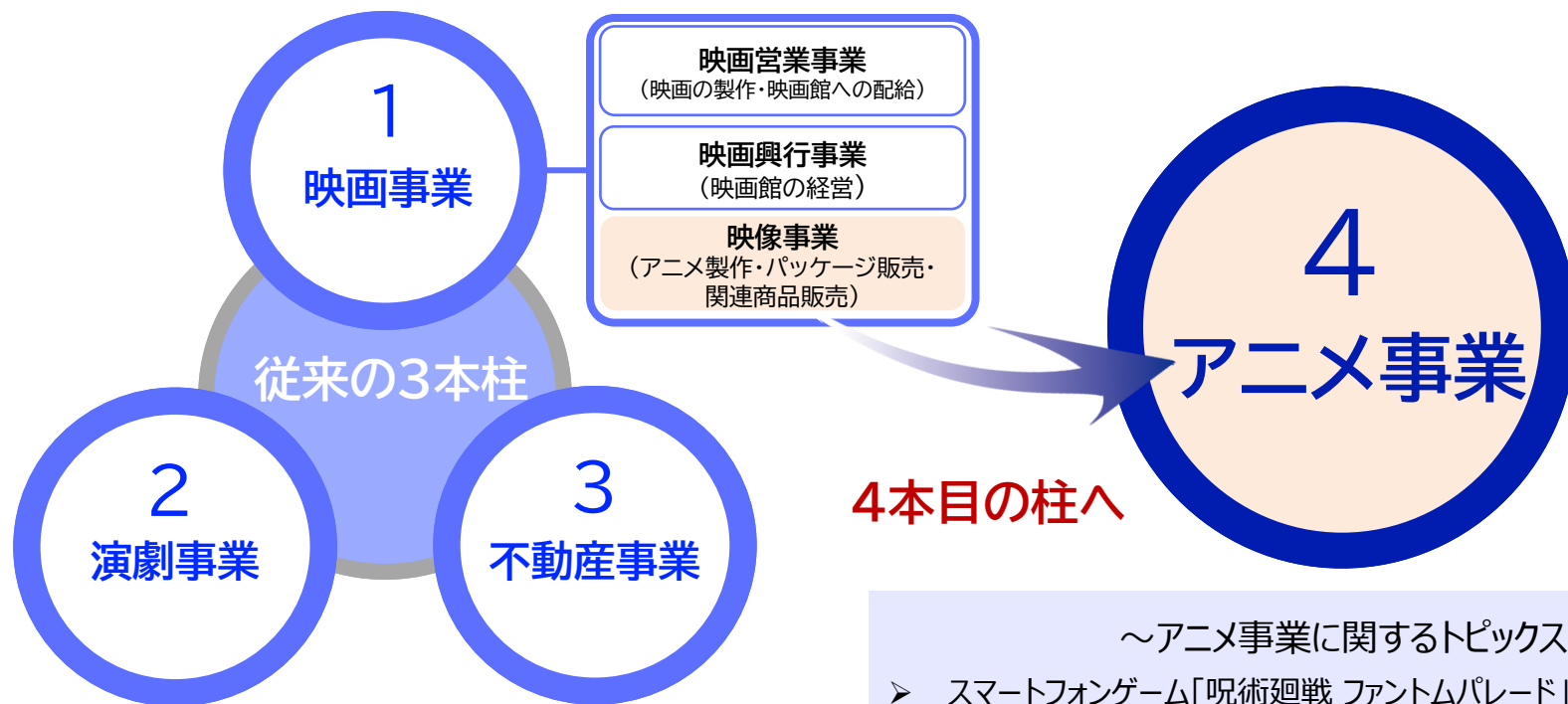
	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
3月	4,494	4,896	108.9%
4月	5,203	7,374	141.7%
5月	6,004	8,133	135.5%
第1四半期	15,702	20,404	129.9%
6月	5,092	5,864	115.2%
7月	5,949	6,395	107.5%
8月	7,871	6,624	84.2%
第2四半期	18,914	18,884	99.8%
9月	4,650	4,952	106.5%
10月	3,683	3,911	106.2%
11月	4,630	3,740	80.8%
第3四半期	12,964	12,604	97.2%

※全国のTOHOシネマス等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）



当社グループは、アニメーションを今後の成長ドライバーと位置づけ、そのアニメ事業を「第4の柱」とすべく、自社ブランドの競争力強化に資源を集中し、多面的・重層的・長期的なビジネス展開を図っております。

事業ポートフォリオの方向性 ～事業の3本柱から4本柱へ～



～アニメ事業に関するトピックス～

- スマートフォンゲーム「呪術廻戦 ファントムパレード」好評配信中
- TVアニメ「葬送のフリーレン」第2クール好評放送中
- TVアニメ「薬屋のひとりごと」第2クール好評放送中
- 「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」2月16日公開
- TVアニメ「僕のヒーローアカデミア」第7期が5月4日より放送予定
- TVアニメ「呪術廻戦 死滅回遊」制作決定
- TVアニメ「Dr.STONE SCIENCE FUTURE」制作決定

2024年2月期 第3四半期アニメ事業 ソース別営業収入及び国内外構成比

◆本表の対象範囲は、TOHO animationレーベル及びこれに準ずる作品です。

	2023年2月期 3月～11月	2024年2月期 3月～11月	前年同期比	増減率	主な増減要因
配信	6,103	10,883	4,780	78.3% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「呪術廻戦」が大きく伸長 ・ (+) 「SPY×FAMILY」「僕のヒーローアカデミア」が好調
キャラクターライセンス	4,926	5,908	982	19.9% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「ハイキュー!!」が堅調
商品物販	1,390	1,427	37	2.7% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」のキャラクターグッズが伸長
パッケージ	2,263	1,461	▲ 802	-35.4% ↘	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「呪術廻戦」「刀剣乱舞」「お兄ちゃんはおしまい!」「お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件」が好調 ・ (-) 前期は「劇場版 呪術廻戦0」が稼働
劇場公開	2,416	2,115	▲ 301	-12.5% ↘	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「BLUE GIANT」「GRIDMAN UNIVERSE」が好調 ・ (-) 前期は「劇場版 呪術廻戦0」が稼働
演劇公演	—	1,054	1,054	— ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「SPY×FAMILY」が帝国劇場にて初のミュージカル化 ・ (+) 関連商品等も好調
配分金 その他	1,111	1,628	517	46.5% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「SPY×FAMILY」「呪術廻戦」の配分金が貢献
合計	18,211	24,479	6,268	34.4% ↗	
	2023年2月期 3月～11月	2024年2月期 3月～11月	前年同期比	増減率	構成比
国内	12,956	14,909	1,953	15.1% ↗	60.9%
海外	5,255	9,569	4,314	82.1% ↗	39.1%

※当資料は、アニメ事業に関する開示情報の充実性の観点から自主的に作成したものであり、他の決算資料における数値とは整合しない場合があります。

(単位：百万円)

「劇場版 SPY×FAMILY CODE: White」



©2023「劇場版 SPY×FAMILY」製作委員会 ©遠藤達哉/集英社

2023年12月22日(金)より、全国劇場にて大ヒット上映中。

TVアニメSeason 2が大好評のうちに幕を閉じ、いっそう期待が高まる中で公開された「SPY×FAMILY」初の劇場版。公開以降、世の話題をさらい、1月8日(月)までの公開後18日間で観客動員数329万人以上、興行収入も44億円を突破した。

原作者の遠藤達哉が監修・キャラクター原案を務める完全新作アニメオリジナルストーリーである本作は、公開決定以降、世界的人気を誇る格闘ゲーム最新作「ストリートファイター6」やトム・クルーズ主演の大ヒット映画「ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE」とのコラボレーションの他、各種タイアップを実現。さらに、俳優の中村倫也、賀来賢人の特別ゲスト声優としての出演も大きな話題を呼んだ。

Season 1 オープニング主題歌「ミクスナッツ」の人気を受け、主題歌は、Official髭男dism「SOULSOUP」に決定。さらに、公開初日には2曲目の主題歌が星野源による「光の跡」であることが発表され、Season 1の名タッグ再結成に大きな反響が巻き起こるなど、ますます注目が高まっている。

「ぶっちぎり?!」



©「ぶっちぎり?!」製作委員会

現在毎週土曜23:00~テレ東系列ほかにて放送中。

「呪術廻戦」のMAPPA×TOHO animationがおくる完全新作オリジナルアニメーション。

喧嘩上等! な不良高校でナンパな転校生・灯荒仁(ともしび・あらじん)が出会ったのは、不良チームNo.2となった幼馴染・浅観音真宝(あさみね・またから)。さらに、武を極めた謎の存在「本気人(マジン)」の千夜(せんや)に憑りつかれてしまったことで、荒仁は学園ヤンキー抗争に巻き込まれていく…! バトルあり、笑いあり、涙あり、ロマンスあり(?)な青春アクションコメディ。

京都アニメーション制作の大人気水泳アニメ「Free!」や、オリジナルアニメ「SK∞ エスケーエイト」を大ヒットに導いた内海紘子が監督、「ハイキュー!!」「ブルーロック」の岸本卓がシリーズ構成・脚本を務め、MAPPAがアニメーション制作を担当。ポップでハイテンションなストーリーが大きな反響を集めている。

「怪獣8号」



©防衛隊第3部隊 ©松本直也/集英社

2024年4月よりテレ東系列ほかにて放送 & X (Twitter) にて全世界リアルタイム配信予定。

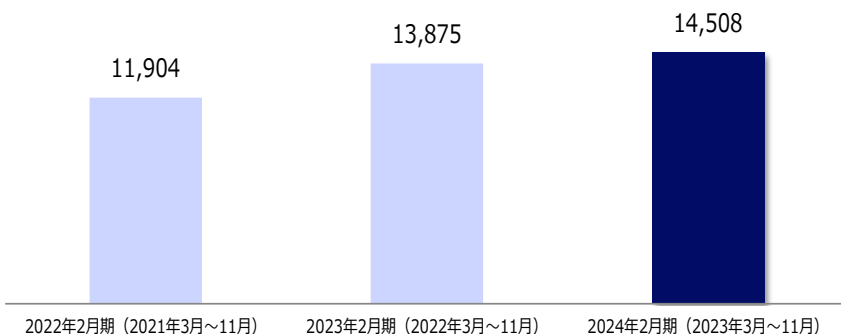
原作は集英社「少年ジャンプ+」にて連載中の、松本直也による大人気コミック「怪獣8号」。

国内外で数々のマンガ賞に輝き、既刊11巻にして国内累計発行部数は1,200万部超(デジタル版含む)、映像化以前から欧米ほか各国でも人気を集める大ヒットコミック待望のアニメ化を手掛けるのは、アニメーション制作: Production I.G (「攻殻機動隊」シリーズほか)、怪獣デザイン&ワークス: スタジオカラー (「エヴァンゲリオン」シリーズほか) による大怪獣級タッグ。

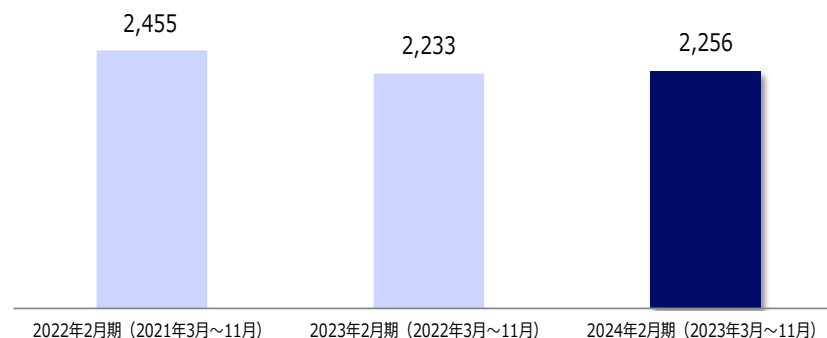
さらに、監督: 宮繁之、神谷友美以下、キャラクターデザイン・総作画監督の西尾鉄也 (「NARUTO -ナルト-」キャラクターデザインほか)、怪獣デザインの前田真宏 (「シン・ゴジラ」ゴジライメージデザインほか)、音楽の坂東祐太 (「竜とそばかすの姫」ほか) ら超豪華スタッフが放送以前から話題を集めている。

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



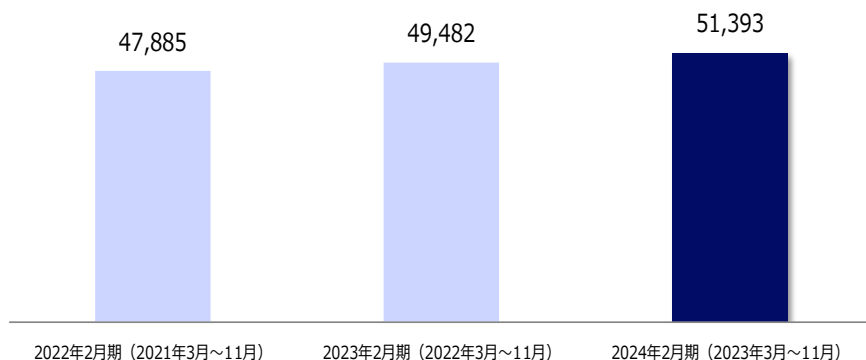
(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

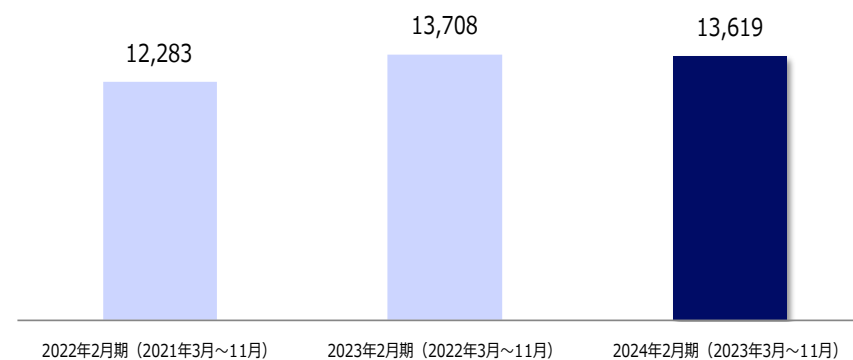
- 帝国劇場では、「DREAM BOYS」(9月公演) や日本版初演「チャーリーとチョコレート工場」(10月公演)、初演「LUPIN ～カリオストロ伯爵夫人の秘密～」(11月公演) が盛況。
シアタークリエでは、「M.クンツェ&S.リーヴァイの世界～3rd Season～」(9月公演)、初演「のだめカンタービレ」(10月公演) 等を上演。
日生劇場では、「ラグタイム」(9月公演) を上演。
- 東宝芸能(株)では、長澤まさみ、浜辺美波、上白石萌音、上白石萌歌ら所属俳優がCM出演等で好調に推移。
- 演劇事業全体としては、新作公演に伴うコスト増が発生したものの、好調なチケットセールスに加え、前年に発生したような休演が無いために増収増益。

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件が堅調に稼働。また、昨年2月竣工の東宝日比谷プロムナードビルをはじめとした新規物件が貢献し増収となるも、減価償却費等の費用増があり、わずかに減益。
- 道路事業では、公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めたが、労務費や資機材価格の上昇等が影響し、増収減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、新規受注や経費削減に努めたことに加え、延期されていた工事の実施もあり、増収増益。

業績予想・配当予想

■ 2024年2月期連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
2024年2月期（予想）	270,000	50,000	54,000	36,000	206.20
(ご参考) 2023年2月期実績	244,295	44,880	47,815	33,430	190.37

※直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

■ 配当予想

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期(予想)	—	20.00	—	40.00	60.00
(ご参考) 2023年2月期実績	—	20.00	—	40.00	60.00

※直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社 コーポレート本部 総務部 広報・IR室
Mail : pr_ir@toho.co.jp